

特別
ル 3
3617
83



目録

岐蘓路
名勝圖

岐蘓路記

此書如戸方と武藏上冊位法美法近江五ヶ所乃
多路記とて東山乃此由下冊津國出羽の事ハ乃
に之は此ハ記され寸志ハとも又東山乃記といハゆ

貝原先生著

京師

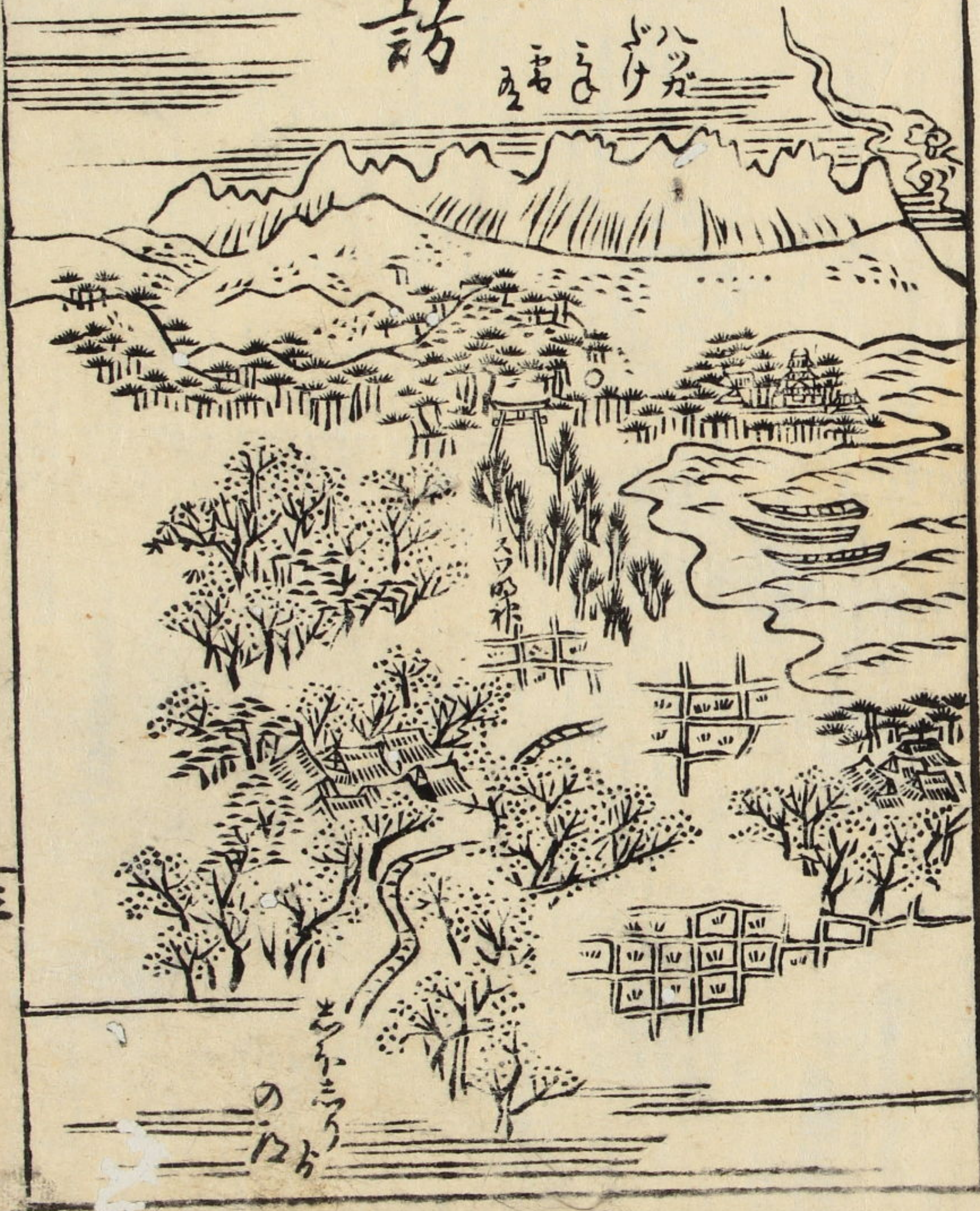
柳枝軒





園湖禪訪

八ヶ岳
の
ま
ま



あまの
の
た

富士山

あまの
坂中
の
りえ
りえ





床山

寺川



寢覚床山

寢覚山臨川寺

床山 獅子岩 舟先天小社水石

どろ岩 舟先天小社

屏風岩 舟先天小社

獅子岩 舟先天小社

舟先天小社水石





山松月

八景

長江帆

舟回夕照



山長雪

淡海

舟渡春風

舟回淡海

東山道西帰之記序

貞享^{キントウシ}し丑乃歳^{キントウシ}之れ武城^{キントウシ}より西
み帰^{キントウシ}らん^{キントウシ}とせ^{キントウシ}に志^{オイ}の^{オイ}身^{オイ}の^{オイ}又^{オイ}東^{オイ}よ
遊^{オイ}らん^{オイ}も^{オイ}定^{オイ}め^{オイ}あ^{オイ}け^{オイ}ま^{オイ}い^{オイ}の^{オイ}世^{オイ}は^{オイ}あ^{オイ}の^{オイ}に
お^{オイ}い^{オイ}と^{オイ}然^{オイ}と^{オイ}ゆ^{オイ}く^{オイ}者^{オイ}の^{オイ}轅^{オイ}と^{オイ}北^{オイ}
と^{オイ}あ^{オイ}と^{オイ}く^{オイ}中^{オイ}の^{オイ}日^{オイ}え^{オイ}と^{オイ}は^{オイ}満^{オイ}う^{オイ}の^{オイ}か
り^{オイ}て^{オイ}お^{オイ}そ^{オイ}れ^{オイ}と^{オイ}あ^{オイ}そ^{オイ}れ^{オイ}も^{オイ} 淨^{オイ}社^{オイ}と
伏^{オイ}拝^{オイ}と^{オイ}も^{オイ}り^{オイ}に^{オイ} 神^{オイ}威^{オイ}乃^{オイ}き^{オイ}ら^{オイ}う

〇

第

とん清一ありはる清一宮作のつらつら
よらふみづきとちきいたるこれ
ふいさゆいさやこれ拙い筆筆の
其さういとも志はさん事
もかこけいもいもいも室乃八
に立より是利の字換はゆうで依
野天明とすは妙哉らよのちりう
とん山をこえくろりの肉は浅間が

嶽をらまはる路はこいよ波は路
とこえ嶮様とゆるく鷹斜とゆる
を地して是流路より越路をえ
まくゆいさゆいにる波乃園より右
みづかき北よゆき伊吹山の鳥籠
湖の海まらぐけ柳の嫩刀祿と
て越前乃敷かえよいり金ガ橋よ
ゆいさゆい海をわらわらまはる宮

CHANG

MEI

を伏せし本乃目と成をり見あり
らと成つてえ近江の貝津れ浦もか
湖水のまじ成とたわど川ゆたは乃
森比良れ渡野田の浦まの野の入り
坂本へはをくく系ぬ入ぬこそえぬ
間も人けてよ乃と岡まらりしにか
うらうはいしき名猪の地とまめわ
たりあくまてんはるりし地しは

ふいふりまじぬとらよ島入民の登
とらあすうふ勢つてれらあも
ひら遠くあられゆきどおまらつ白
浪のままりぬさねれりまく目
ぬをしきまきかりしるま佳境と
をいあまにたがあゆ道すうと
乃末はるるれと北まらうと
かまの気候おとて地まわし紅

Chamber

150-11

白のむらりいりく見ゆ
いあり人一日の暮セウあそび一日乃
神仙とちふとくまはらるる井のれ
ふとのけいも浮世れらるる目け
て佳境カケウとさひちいりすれぬま
ふてギヤツニ舞の仁よあらしくシヤクの遊
をちすもさひりりと東坡ぐいふ
くく 大君の清めくいよりてを平

乃世よせ終はれをゆる事すく先
てくめふ遊の其一時乃ちがめ
うは身とねる海くおくれをまれ
ありふをさしゆまのいまのめり
見はん地コキユキとちふれ井のれ
まる糸コキユキとちふ糸く糸ゆキさあま
くあり糸の目いさある村里のあり
さはらのきくすま川乃流す團

CHAMPI
1000

而の佳系ケイたしとんはよきとん
まに陸リクしと道ミチのづらにありく
書シて後ノチ乃ノとんしよとんめ又マタ後
約ヨクととん人のるるぶとありけん
とて長チカき道ミチとニ経ヒキき筆ヒツにまうせマ安
母ハハ純ジュンとらぬをたは平安城ヘイアンの書シ林
柳ヤナギ枝エ新ニ此コノ紙シ行コトをシ梓シよとりのりんと
らとん道ミチとらよし紙シの昔シヨク彼カノ道ミチととる

一 時移む村童のめくちとんトモガ同
る共トモなるれい考カウとんふ事コト者モノあ人もし
るあアとりハ位イたくとんトとちた君
乃ノん信シんもあアとけなケとん世セのノ人ヒト
あまアとみきんもあアけあアれいイん
あアとトしとシとられもあアぬきキあアと
ととトとトあアりぬヌとトとトと道ミチの
とトとトとトと人ヒトありては紙シの

わやまらりをあつてあつてつりつり
ききしめん

寶永六年孟春の日

益軒貝原篤信記

本曾路之記上

貝原篤信記

江戸

江戸下町

より板橋へ二里十町

板橋より藤二里

水乃戸田の溪あり比川水は板橋の

より出る川上流へ入る川せいの

下を流るる角田川是なり

板橋の名所 仔細地儀よりと
見たり

蕨より浦和へ一里半

浦和より大宮へ一里十町

大宮より上尾へ二里

上尾より桶川へ一里近し

桶川より蕨へ一里半

桶川の町家数百軒許あり

蕨の巢より蕨谷へ三里半

蕨の巢氏家百三十軒許。町のおはら

右に於て日少くあり。阿部
忠房守殿領内。箕田村北中より八幡
あり。是流急流。細が社也。細の祖父より
箕田其田よりなり。故。箕田乃源次と
号す。このまの所か村入口右方に昔なる殿
殿の所あり

蕨谷より源谷へ二里半町

蕨谷北町家百軒許あり。蕨谷源谷

恒々一取之。然谷がちる本備あり。是か
秩父へ三里半あり。秩父山の北麓にあり。云
言ふ也。江戸の板谷よりあり。みゆ。江
戸の神井よりあり。秩父山の下の島
と云ふ也。富山の重忠宅の跡あり。地
乃ごとく。江戸より富山の十里あり。然
るより半多へ三里半あり。あり。永井
へ三里半あり。あり。是より富山の十里あり。一

也。武井村茶屋を

源谷より半多へ三里半あり

源谷家敷三百どあり。いさるふ岩村
あり。是初め原名あり。古くは岩村
源谷太田高田あり。後河本岩村
よみ源谷宅あり。いさるふ岩村
源谷宅あり。いさるふ岩村

いさるふ岩村よりあり
よみ源谷宅あり

半多より新町へ三里

中庄町家百むくろ酒井宗女後代
新町より余加野へ一里半
新町乃氏家二百許町の北に橋を
是か酒井雅和以後分て荒鼻村
か川末流と申れ城之天正年中
川左兵衛監と小桑氏政と合戦し
之んか川の渡より同社越前守
也

余加野より高橋へ一里半
余加野町屋二百四十八軒町中より
向ふ漢界みゆる高橋分所より
依此の道より高橋あり道
中あり依此村あり依此舟橋を渡
し川を名取之古寺多し舟橋をつか
ぶる本かたとして
云今ハカ依此酒井恒世が意宅と

依野より。定家の郷。定家此の神也。
名取よりありて

高崎より板鼻一里三十町

高崎此町家子朝をり。左の方面に
板鼻より後城あり。高崎此郷より佐藤の
藩の嶽よりみゆる。高崎此郷より高
崎あり。是よりして高崎と号す
あり。是郷の郷は鐵と云村也。郷事

多し。此郷は乃色也。郷事多し。此郷

板鼻より安中、三十町

板鼻の町家百余家。此地は沼井能義
及此郷中宿より肉友の郷也。後銀あり
板鼻の町家よりあり。一りあり。此郷
神也。是と此の費最の神也。一りあり
安中より松井田、二里十町

安中北郡教王百坪。内放の地も安中
なり二万石付。碓日川は橋あり。たふ
妙義の山あり。妙義山へりよるなり
地系一里の長く。および琵琶乃前と
云ふは坂を江戸分毛まで平地之坂なり
松井田より坂中二里

松井田北郡教王百坪。内放の地も安中
なり二万石付。碓日川は橋あり。たふ
妙義の山あり。妙義山へりよるなり
地系一里の長く。および琵琶乃前と
云ふは坂を江戸分毛まで平地之坂なり
松井田より坂中二里

根の雲のく。性系のおわーと人ささ
の妙義の松井田北郡教王百坪。内放の地も安中
なり二万石付。碓日川は橋あり。たふ
妙義の山あり。妙義山へりよるなり
地系一里の長く。および琵琶乃前と
云ふは坂を江戸分毛まで平地之坂なり
松井田より坂中二里

此方とらよらよと列武列服下に居て
好京く町より石の階とわたりゆきか
ま。妙法法師とあそびし市なり。其後
月とて実東に人民の意を致湯治と
す。加ふ人の集宿をよきくして無思
地々。堂の側より列のちる。堂にあり
安夜さうり女巫を以て千餘人並に
集宿の女巫を以て。御託をこえんと

とぞ。託をのべて。若し主人ありされの看
を告ぐ。妙法法師へは。獻れらの法性
を告ぐ。と云ふ。延喜帝は此のとき。けい
けい。白雲と号し。奥院へ集りし一里者。
申す。嶽と云ふ。さしと云ふ。む。其地あり
と云ふ。けい。世よ。形をく。奇。其。形。作。れ。入。
神。其。あり。事。じ。なり。か。は。名。は。必。然。
わり。成。み。形。造。へ。ま。り。あり。○松井田と

坂本乃るふ。世俗よいふ。ゆりある。居
れ是わしれ。世と云あり。凡ゆる。あはれと
云人。古事よ。いふ。世俗の。いひ。傳ふ。事
伝。ド。い。但。日本。武。事。を。わ。り。て。く
い。傳。へ。け。り。い。日本。武。事。を。傳。り。あ。い
し。今。又。昔。後。統。治。も。七。百。合。あ。文。臣。は。た
強。き。強。力。武。勇。わ。り。て。つ。よ。り。い。人
なり。とい。傳。ふ。日本。武。事。統。治。い。い。也

とりあし武勇をれり。す。れ。る。い。れ
は。あ。い。人。を。や。く。い。傳。へ。ん。い。ぶ。う。い。強。は
世。よ。云。傳。ふ。い。強。は。皇。乃。出。す。に。日。系
た。大。臣。の。光。の。子。百。里。あ。大。臣。九。列。の。地
司。と。して。たり。昔。後。よ。傳。へ。れ。り。と。い。ふ。
日本。武。事。と。い。ふ。時代。ら。り。
坂。本。乃。り。程。井。沢。へ。二。里。三。十。町
坂。本。此。人。家。百。二。三。十。町。許。を。坂。と。稱。す。

の。事。上

碓日岩へ上る。たよ入合如漸き若菜上
へあはれうすいなけの坂あり坂あり
入る坂ありあはれあはれ海乃り是初山築
山乃りじこれども橋若根の如く険難
よあはれず坂中如と碓日岩下よ虫
くはれあはれうすいなけの坂あり
石坂と云ふ坂ありて年あはれ山あり
又碓日岩よ上は。是ハさびくじ碓日岩

か東でくりしれは。或は下総考海と神
かどの心。東は徳玉と名は。筑波心元よ
みゆ。昔日本武尊東征しあはれ碓日岩
分取己乃方河らして才橋作を云ふい三
夜歎く吾嬬者耶とのうすいなけの
あべ。是ハ心東は徳玉と吾嬬玉と云ふ日
中紀の系竹紀よんくあり。碓日岩よ茶
屋。町を冬まの雪あり。たよ徳若

碓日岩

2



現る。いふ上州佐法此塔之。首唯目尻
 之。新田義貞此之男也。其父也。其父也。
 是利和軍子民と合戦ありし事。本年紀よ
 名にあり

柳井沢 位効佐久那 今皆掛へ一里六町

柳井沢 柳井 家口十許。唯目尻 目尻 今迄 今迄 二百里
 之。是 是 今 今 浅 浅 乃 乃 嶽 嶽 の の 麓 麓 之 之 浅 浅 乃 乃 嶽 嶽 小 小 山
 之 之 比 比 百 百 之 之 名 名 之 之 里 里 と云 と云。修 修 坊 坊 抽 抽 經 經 の の 示 示 也

よりて。坂乃人各付たり。元江戶が坂本と
平地をいふ。漸く坂本は地形なり。坂
本が難目と三里十町坪たりて。難目の
井沢とさびり不事里々さうゆへに地味
が土質なり。元佐治の自注にこれを地味と
さうゆへと云。其坂の海をくしてふらふ
は。四方の隣に佐治よりよの路のなり。
甲斐の源も地味く陰氣ありと云。佐

治へがけまきたり。坂本をまきいり
其室なり。水も佐治の雪ふけまき地
味くゆへに佐治よりいりて云。御
将井沢。皆掛道なり。三宿は小浅るが
嶽の嶽よりなり。其地を言へば三宿
あり。其地は二三里なり。さうゆへに
此の地味くそくそく穀生せむ。稗
史に生じぬ。畠が。又菓の樹の民

あじ極果あり。石をの北といつべし。昔、我
憲政から流石と命と将として二万余人上
別白井がは地へ交向と。武田修玄より
板垣修形所おとて。将井沢よか合て戦
ふは時板垣勝利とゆふるとかん
當掛より遊分一里二町
當掛の教六十匹の新許町おはより
乃く乃のあり。禁と一里半。禁より
へ

へ一里半の地あり。おりといふは二里半
ありといふを同小と一里半あり。おり
をくとも。將井沢より當掛と一里あり。當
掛分遊分の乃乃の地あり。下とを有あり。び
乃民家ととあり。右宿とありやよの
宿あり
遊分より小田井へ一里半
遊分の町家八十坪。是本宿ありとあり

此^{こゝ}より北^{きた}にまきこする處。遊^{あそ}ぶと云^い。宥^{やす}の西
 より北^{きた}へわたりたるあり。淺^ある所^{ところ}の
 西北^{にしきた}方^{かた}に遊^{あそ}ぶ。遊^{あそ}ぶより音^ねえき(十八
 里^りも。越^こ後^ご境^{かゝり}境^{かゝり}実^{まこと}川^{がは}と云^い。前^{まへ}すで遊^{あそ}ぶよ
 り二十四里^{じゅうにじゅうしり}中^{ちゆう}あり。越^こ後^ごの^う遊^{あそ}ぶ
 三十餘里^{さんじゅうよかり}あり。越^こ後^ごより越^こ中^{ちゆう}加^か斐^{はい}越^こ
 あとてより東^{あづま}へのかつ毛^け小^こ陸^{りく}尾^び之^の越^こ也^{なり}
 海中^{かみ}へ出^でて入^いるまかれば乃^{すなは}筋^{すぢ}よりあり。遊^{あそ}

分^わか小^こ毛^け乃^{すなは}二^に里^り中^{ちゆう}ありて。小^こ陸^{りく}と云^い。宥^{やす}
 嶽^{たけ}あり。牧^{まき}野^の周^{まわ}り方^{かた}後^ご分^わ之^の小^こ陸^{りく}田^{でん}中^{ちゆう}と
 なる上^{うへ}田^{でん}あり。毛^けと小^こ毛^け乃^{すなは}二^に田^{でん}へ遊^{あそ}ぶ分^わ
 八里^{はちり}中^{ちゆう}あり。上^{うへ}田^{でん}ハ越^こ後^ご川^{がは}乃^{すなは}今^{いま}ハ
 松^{まつ}平^{ひら}伴^{ばん}契^{けい}也^{なり}。後^ご吾^{われ}越^こ也^{なり}。越^こ後^ごより越^こ中^{ちゆう}加^か斐^{はい}
 物^{もの}有^ある處^{ところ}。毛^け中^{ちゆう}は乃^{すなは}自^{みづか}由^{よし}入^い奥^{おく}越^こ也^{なり}と云^い
 一^{ひと}と云^い。上^{うへ}田^{でん}と云^い。乃^{すなは}上^{うへ}田^{でん}の^うた^たく^くよ^よと云^い。天^{てん}心^{しん}
 の法^{ほう}より考^{こう}え長^{なが}中^{ちゆう}まで。乃^{すなは}田^{でん}安^{やす}房^{ぼう}守^{しゅ}吾^{われ}越^こ

と云。是より上北の沼田ともうけおき
と云。沼田の上列麻栲のおく。是より上を
し。上田の松城菅光寺など。過り新橋へ
ゆくと云。川中嶋と道なり。姨控の上田
分六里先より云と云。文料殿へ。是より上田
の上田よりありと云。小縣殿へ。伏屋の小佐の
中なり。松城の上田伊豆守殿居地と云。先
より丹波橋と云。宿あり。筑摩川と云。

と云。川中嶋なり。筑摩川と云。川と云
中よりありと云。川中嶋と云。是より上は横田川
あり。菅原菅義仲と。平家北方人越
後州を多し合戦あり。永禄三年
中田信玄の甲列より。長尾徳信の越
後へ合戦。川中嶋より合戦あり。菅原
乃先より戸隠あり。管六郎軍。惟新
と云。戸隠より。戸隠の神社あり

日本社へ遊をよ川中橋を十六里許り
と。吾先さの町山を筋へ吾先さの敷板
のさ田十三里許り云云。成君は嶽の
あてさ一とた禁比さ死な。まさく
いんさど。さよ小智に網さ事一とさ
さのよるがごとく又まらどごとく。けさ
よりよよ果来生せび。一日の内さる網
な死時を。大屋けさる時。六里七里ある

野しく呼吸をて。血茶碗の類をひごさ
て被る事。焼るも死と云。やけるれご
とくある。たのうさるに多し。常はるより
くあり。大徳いまれ。山徳い時とあり。江戸の
あさりとも。山大徳の折良い時と。灰は
来る事ありと。さ。けい。江。方へ近
流尾張の方へさ。伊勢場原は葉平の
けりの次第。伊勢尾張のあさりより濱

が嶽と見えて。奇山よきところやうかどだ。仔細
な結の方よりい及をく心通るりて
見とど。約がたけの結をゆり。業平は後
と此の色ありて。後者が嶽とよめる奇山。
仔細物終とあり人あより入るや。
追かより小田井へりよ。さ終よりわらう
取より。元持井沢分和田炭の東まで
るの氷たがれい若らくま川へ為合を越

後よながる。松城よ青武田信玄の家
高飯原の昌信を極す。ま内い貝津の城と
号す。桐原と云名取と川中橋よま
小田井より名村田へ一里八町

小田井の家二十里あり。家ありて
まづあり宿と。小田井は南より西の
端より飯をりたる如くなる。飯盛が嶽
といふ。ま東よりまて八がけと云。峯八

ゆかり。又八坂やまと云。凡およけき四よ方かたの山やま
三日月みやづきを雪ゆき多おほし

岩村田より塩名田へ二里八町にせいはち

岩村田の町家八十軒。町の入口より小橋
へ行り及あり。二里を。岩村田と。塩名田に
あり。平塚村。新塚村。下塚原村あり

塩名田より八幡二十七町

塩名田の町家七十軒。町の出口に川と

筑摩川と云。為重之。大河なり。小橋と云を
つ。げ川と云。れと田所あり。川中橋と云ぐ
つ。吾々もつ。ま里と云。流れ。越後
田と出でて海へ入る。云

八幡より八里三十二町

八幡の町家百軒。八幡のまを。げ。令。令。
瓦生坂わらひと云坂あり

岩村田より岩田へ二里八町

至月乃町家百坪。町家おれ右隣の池に
昔は月氏の代々居候なり。新朝に時
此の月根津。先づ二人之の時より此
かりといふ。城山の山火なる派を。至月根津
の若木なり。至月の約。至月の牧。至月
よよめり。びきこし脚。牧七とくこしを
皆は牧有しといふ。今あり。至月根津の
く。若木之。今も此の性。至月の種

煙のゆき。至月并は牧七のち内藤を
のち瓜とく。他におなりても一宿をゆり
らす。至月よりと文科へ七里。姨控の
九里。昔は先も二十里。越後より田へ廿八里わ
り。至月と若田あり。おれ方。高ぶれに
至月平より。下りの系。至月根津下三
里よりあり。至月村あり。是のたより
及ぶ。昔は田修云と。村と義法と云

野平山と合戦あり。後又修玄と後深
し。いふ所を初夜乃軍あり。又たより根
津村と移る。根津甚平が居る所也。根
津村の下に在り。又そをこよ海浜村と云
本なる小庵と云ふ。夜深と云士といふ人
もや。いふ所よりいふ方より同くあり。あはれ
小をいふ所と菅田村あり。石原坂と云坂あり。
又よりとると巖と云云

菅田より長久保へ一里は八町

菅田は町家百軒。いふ所よ菅田は伊集原
家の治あり

長窪 小縣郡 一里和向へ二里

長久保の家百餘。下和向村。長窪の南は
大門村あり。そを南よ大門巖あり。たよりは
あう小島。いふ武田修玄と修列の領あり。小
笠原との合戦あり。大門巖合戦と云

和田より下の旗務へ六里十六町

和田の所^所百餘あり。比るる和田^{和田}は
坂^坂長し。上下あり二里半餘あり。東坂の
やどらうあり。西坂はけし。さきさき^{さきさき}
み^みあらず。三月末まで名の雪あり。
路^路もなすのこわり。麓より東七八町よ
りりや村あり。麓より西五六町よりやをわ
り。比^比のりあり雪あり

下の旗務より塩尻へ三里

下の旗務は和田麓に坂あり。家七百軒
むらあり。人おかくあつ。坂はざり
はよ。下の旗務大町村あり。是ぞままとい
ふ。是町おのりあり。ま先町^{ま先}はざり
と大町村の社あり。是秋まといまの
か。大町村は正月朔日よ春まとい
つし。七月朔日よ秋まといはなる。毎

後秋興よのやあつひ。元日みおれかじ。
 七月朔日み祭あり。まゑよすしすしと見。
 秋まいる社あり。秋まゑすしと見。
 まゑの社あり。上乃後傍よ下れ後傍より
 三里あり。上の後傍の祭三月圓の日ち
 つ。圓は月三つと申す。二つを初と
 用。祭の頭と七十又。姐よのや。社あゝ傍ふ
 又別よ祭肉と料理し。造てそめ。社



人^丸とそ麻の肉を食とも。他人と社人なりゆ
 ちとわま麻の肉をくらふ。麻ひじろくの
 捕師^{カキ}又急^{ウツク}程^シなむとまの。おま^{カキ}りて^{カキ}
 ぐ。下^{カキ}初^{カキ}宿^{カキ}のまつりに麻ひじろくほど下
 初^{カキ}宿^{カキ}社人も麻食のゆきとま^{カキ}を
 上の初^{カキ}宿^{カキ}より毎年七十^{カキ}ある^{カキ}祭あり。
 とは初^{カキ}宿^{カキ}末^{カキ}及^{カキ}至^{カキ}麻^{カキ}。社人^{カキ}は^{カキ}下^{カキ}初^{カキ}社
 にも各^{カキ}一人^{カキ}は^{カキ}。初^{カキ}宿^{カキ}とも一人^{カキ}なり。とま^{カキ}

社にも初^{カキ}宿^{カキ}各一人^{カキ}あり。又社^{カキ}宿^{カキ}も上^{カキ}下^{カキ}の
 社^{カキ}も各^{カキ}一人^{カキ}は^{カキ}。社^{カキ}宿^{カキ}の上^{カキ}より下^{カキ}より
 右^{カキ}附^{カキ}より。上下^{カキ}を以^{カキ}て七^{カキ}多^{カキ}に一度^{カキ}。
 とて大^{カキ}祭^{カキ}あり。ま^{カキ}を^{カキ}四^{カキ}方^{カキ}より人^{カキ}多^{カキ}く集^{カキ}
 つ。ま^{カキ}は^{カキ}式^{カキ}た^{カキ}び^{カキ}に。四月^{カキ}申^{カキ}寅^{カキ}日^{カキ}とて
 ろく用^{カキ}ゆ。下^{カキ}初^{カキ}宿^{カキ}より高^{カキ}崎^{カキ}地^{カキ}へ一
 里^{カキ}あり^{カキ}。初^{カキ}宿^{カキ}末^{カキ}及^{カキ}至^{カキ}麻^{カキ}。社人^{カキ}は^{カキ}下^{カキ}初^{カキ}社
 にも各^{カキ}一人^{カキ}は^{カキ}。初^{カキ}宿^{カキ}とも一人^{カキ}なり。とま^{カキ}

木

三

陸の方一方向入り口あり。ま前よかんとそ
入町許あり。尤た浪なり深し。まは橋
を。橋乃下へ川なり。船の出入自由。橋か
まもあつた。紙。夜が橋と云名あり。びりよ
富士の親うつろと云。名海乃舟に。徳法
かろ衣が橋よ。事てえれた。富士のよここく
わま舟。舟舟。ま本集舟舟に。まは海衣
かみう記がめけ。ま目らじよ。かりうとこの

海より上の飯傍はる一里事餘あり。湖
のわりと通るは田中と云。上の飯傍と
甲州乃なり。江戸か甲州と通れたまよ。出
来たり。又まより甲州と通る小色下れ飯
傍かこう親。飯傍の海濱。飯傍名なり。
古舟ま。○飯傍の湖。ハ下飯傍の町乃
ありあり。まより一里事あり。見渡し
二里程よみゆ。湖まよりありて。東西あり

何ぞひらきき海に魚七尋むりまきなり
又浦くわりて民家多し。四方に魚の
あり好氣之漁人多し。魚とらる。漁
舟多し。漁舟の外船も多し。舟楫多
し。湖冬も氷ありて土地も遠る
なく。湖一面よりさぐる。年終るを温よ
す。霜月の初仲終或師をの初より
氷ありて後人まよふ所ある。春もも魚よ

よりて正月の末。二月の末を氷止と云
ふ。二月申すまでと云ふ。氷の二月末までわ
り。雪多し。氷もく消る。氷の年の二年
より八九寸。二三寸あり。そよの何れ
大木大石を並てしと云ふ事あり。冬も人
よりてもあやうか。氷の上もどるゆへ
ん。冬も多し。冬も多し。冬も多し。冬も多し。
冬も多し。冬も多し。冬も多し。冬も多し。

履して色む。さうどぶ家ゆりさうだ。目
本中よ湖多しとさうどぶくおしく
氷さうなるし。信濃の目本ゆきく最地
きくして雲采ふくこ園たふた也。
湖の上よ冬さうどめて氷をりて。第三日
ぬ氷落れた。第四日のは上北飯坊
より。下の飯坊の方にはさうどぶをり
大介のなるさうのさうどぶく。氷の上よ

わと付てみゆり。是毎さうどぶ。奇
怪の事。是と御後と云。又津先と云
津後ありて後人さう。御後なま内お
後さう。水たぬさうさう。さうどぶより
後の事さう。さうの飯坊よりさう事さう
さう。下北飯坊はさう。津後わらさう
さう。さうさう。さう。津先と云
津後のさう。さう。さう。さう。さう

ま。海川院後石首 神祇伯那仲ガ奇よ
すしの海姑水の上の海姑の神のまじりて
さくさくたりとよちうはまきわたんの下の海姑
よ温泉三雲又わり。上の海姑よ黒雲とび
取の人の物々よゆわも。或は夜に洗あど
とらこも。皆温泉を月ゆ。性良の強介
多くけ湯よ入ら。び比とて浴湯とてう
すまゆ。湖中少と温泉出のまおの

水あまびとつり。岩壁うたれよ入る湯
と洗浴のためよ入湯とてうまもりのひ瀬
水よりて漁人水う下あまをとりを水
引とまこし又奇異のまじり。氷と一雨か
ぐらうぐらして。まあまわりあまをまきこも
先かうぐら行の竿を括てまへのうぐら
うのあより。次のうぐらたうあまどあまを
送のやとて。炎あまうくあまとてあまら

の末

三十五

てわさざらうくをりて魚沼と云。首のう
くはぬくとも。とてをあらびてをまを
漢人ともあらせむと云り。○下れと云
らり富士らより二十里をりまをよ
高の山あり。この後河より南よりなるが
よし。少くもらび。但信濃の地なると云
富士に甚きくく。いんじ。は湖に水あり
方よかづれ。高木作奈和と云く。を列へ

いで天竺川と云。もと新川の源也。もと
て天竺の川と云。もとて田沼あり。よの
飯沼の川と云。鳳凰がだけと云。まを
此の川をがづけと云。湖の長也。あり。山
はがづけと云。もと小田井より。八岐乃
ふなり。何れも。し。湖の中より。小川
ようぐい。と云。魚多し。と云。はあよ
あ。い。づ。の。が。は。と。漢。人。と。云。ら。り。は。は。は。は。

どれより舟にのりてさよのがかりなりて後
くらら。葦原をたててわきよそらる。比治のふ
毛沢赤魚とてよの停奈郡のさうわまで
下の飯沼の四里。停奈郡の右にあり。停奈
郡の舟池二あり。さよを飯沼よりさよを
城今の内渡駿河も飯沼三万三ふ石飯
田舟池の舟大和舟も飯沼二万ふ石く。さよを
と飯沼の舟十里をさう下の飯沼より飯

へ十里。さよを八里あり。川中橋下の
飯沼より十里をさう。越後のさ田三
十里。飯沼の舟より夏飯舟一かあり。さ
と人さうらと。さよを舟の舟はりの舟二
尺五寸をさう。舟の舟より舟の舟はりの舟
舟の舟はりの舟の舟はりの舟の舟はりの舟
舟の舟はりの舟の舟はりの舟の舟はりの舟
舟の舟はりの舟の舟はりの舟の舟はりの舟
舟の舟はりの舟の舟はりの舟の舟はりの舟



塩尻^{しほじり}の坂を坂と云ふ。坂と云ふは又社也。たよる^{たよる}若
 わり。はるあも系橋^{けいしやう}あり。青民田^{あおたに}
 信玄下の^{しんげん}御成の方より也。松平^{まつだいら}の城^{しろ}は
 笠原^{かさはら}氏と。本宮^{ほんみや}お集也。楳原^{うめはら}系より出で
 塩尻^{しほじり}の坂と云ふ。甲州^{こうしゅう}坂と信濃^{しんねう}の坂と合戦^{くわせん}を
 云ふ。塩尻^{しほじり}の坂より西^{にし}筑摩^{ちくま}の坂なり。は
 坂より富士^{ふじ}の山^{やま}より。又上^{かみ}の御成^{ごなり}。高橋^{たかはし}の坂
 と云ふ

塩尻 塩原から洗る二里

塩尻如町家百餘軒。町口右方八幡
あり。巖より西に松中如湯之水也。集
及館内之松本城七百石あり。松中
より二里あり。牟原の比より山中より
也。修助より心原廣之と云はる。このありは
越後の方へ流る松本を仁科と云りて。越
中への道あり。塩尻城の西の坂より水

と大洞の法あり。その塩尻の西に後
原とて廣くあり。田畠あり。若原
先多耳利な湯あり。松中の湯より小の系
氏と。後原より合我よりなりは軍
去が如湯あり。塩尻城の西より牟原の
東まであり。皆水ながれて洗原川へ
入て越後へなる

洗るより中より三十町

の味

洗^セ子乃町家八十軒をりを町北東入口
上。各野集人及茶屋あり。西乃お口より小
沢川をいふ二里より今井しつて西あり為
平か竹し而くしよ毛産^{ニシセツ}洗あり。本曾上
に今井とよ西を為平位せしと云。洗子の
死よ本田乃法よりして水あり本為義仲
のふる所ありしし。西^{ウラ}産洗子とく名付と云
○洗子の松平へ二里。昔老もへ十九里。越後

より田へ一里。川中崎乃内橋ありの町を
十一里。松平へ橋ありより六里
中より熱川へ二里

中乃町家八十軒を町西れお口より
橋より上より川かぐろ毛し本曾のかわり
本曾松平台よりあり。先^{ミツ}より橋洗と
云。西より橋より本曾城。本曾の尾筋の
山なり。毛の松平城。毛の西より本曾を

の山あり

橋きり坂あり。それか川たよる。流し先
こし急川を川の後にたりに尾羽君が園西を
熱川と九よりちちの井へ一里也

熱川の所家六七十なり。その所の東北入口
太の方に番町ばんまちを。がらみ村を坂をとり
小橋を急川をちよんる。平沼村を二町程
ゆき急川橋を急川をたよんる
ちちの井を熱川へ一里也

急川井の町に家百をり。は町よん。か
しこまげ物多し。ゆかりておほくう。小
坂を先よ小まげを二里。ゆきよ本町
何れかの合戦場を急川合戦をこし
は天正十年武田勝頼が。今後絶つちと人
おらして人殺し子ゆい。西へ被を本町なる
既義政よしまさゆきよ。方りて七子ゆい
急川へ北白戦きたしろいくさを。本町ゆいとして

甲辰防戩にゆく討つる。高松城は是分十町
程先上り也。本町及硯水と云ある。高井城
は碓日城を坂と云ふ。このりがこゝありて
不之。高本管の心嶽の者居安以迄に
名付と云。今も居申。坂州西にありは教
乃入口かおよ花塚のまらへりた。まら
昔は高松及居城。是分十九里あり。花塚
は江戸へりよいひたと云。是分花塚へりた

は高松城にてもは高松中比。半ありて坂
をよすといふ

教原より文の越へ三里

教原町が八十をりも。げ本高松の道とよ
り入る。是も下り高松をい本高松と云
る十七里も。城は深山にあり。城は紀文
武天皇のとき。二丁十二月。始て。高松
城。藤原のとき。高松。高松。高松。高松。

原より河をへ。古に流るる流二玉のる流池
ありて通流がりし。は時始てうけしとけ
て通流がりし。又流目平紀元の時白皇
よとるなり。町あり。町あり。町あり。川あり。みゆり。菰
原あり。よ。萩せと云。村あり。も。材本多くあり。
と云。川あり。萩せと云。村あり。も。本あり。川
あり。水あり。凡本あり。若くあり。ひり。菅田村
と二三町の。本あり。川あり。橋あり。も。川あり。とあり。み。

美の越あり。池あり。村あり。川あり。ひり。凡本あり。後
のあり。も。本あり。義仲あり。社あり。と云。とあり。と
あり。文あり。と云。とあり。平あり。あり。ゆり。池あり。ご
とあり。かあり。あり。と云。社あり。とあり。も。本あり。義
仲あり。池あり。のあり。平あり。あり。橋あり。二町あり。
つとあり。とあり。あり。も。川あり。ひり。凡本あり。池あり
あり。巴あり。池あり。のあり。とあり。安あり。とあり。山あり。が
あり。平あり。とあり。池あり。も。村あり。下にあり。橋あり。も。本あり。川

乃橋くび橋とくくれども本意の河志より
又の勝ふ福崎へ一里ま

官に橋家殺むすれども。又の腰よ
り三町移り道よりたよ榎に平が
屋敷の松を平比へ榎に谷とく。又の腰
か一里下に上田と云ふ所あり。蕙平が父本意
乃伸三蕙をが屋敷の松あり。本意の
の父平刀先生義賢然源を義平よ

にあり。時義伸三蕙切りし母抱て
信流よりより本意の伸三蕙遠を移し
蕙を忠義育ちてひりりぬ。本意に本
意乳母丈伸三移り蕙をとり。官の
勝の平里下に京地と云町を。またた
此京地といふ言ふ。材本多し。京地の
か下たよひりり。本意とよ。約が蕙
了。約が蕙い。又の勝の一里下に。とよ

豹は似たり大なるを故に下より必
 けいし母等こまき。豹ふたしくれかき死せ大
 嶽しふれして大つるもしく。故にを家々
 しくも。もして本男く。空の雪。ふれむ
 用あま滑く。八月又つり。豹ぐぐけの
 篠大原と云。まよふ川かぐる。豹がだけよ
 つから水なり。びん代東八條系部なり
 後鳴しりと松へ二里す

後鳴の町家敷石三平軒なり。本男の甲
 ようびつ。佐流流しをよこす。此の
 賣物かどとわり。町ウ入口花の方よ。休
 けり。此番おま。しあうそ。安へおま。後
 物と女といふ。うし。しり事。を列意
 江ウ。お村甚ま。おと云人。危列の
 与力がう。は。おま。おま。知り七。先
 祖へ本男義政の家人なり。町のじうは

具^{ツリ}福^トも^トく^ト縁^トも^トあり。板^{イタ}敷^シ地^ノも^トも^トよ
日^ヒ七^シ八^{ハチ}町^{マチ}なり。木^キ芳^{ヨシ}の^ノけ^ケ橋^{ハシ}も^ト。木^キ曾^{ソウ}川^{カハ}
に^ニけ^ケら^ラ橋^{ハシ}も^トあり。び^ビの^ノと^トい^イは^ハれ^レ終^{ハシ}る^ル
所^{トコロ}より^{ヨリ}け^ケら^ラ橋^{ハシ}も^トあり。木^キ芳^{ヨシ}川^{カハ}に^ニけ^ケ
たり。横^{ヨコ}二^ニ房^{ボウ}長^{ナガ}十^{ジュウ}房^{ボウ}の^ノ板^{イタ}橋^{ハシ}も^ト。欄^{ラン}干^{カン}の^ノ
敷^シ旁^{ナカ}ハ^ハふ^フ地^チは^ハつ^ツも^ト。じ^ジう^ウの^ノあ^アや^ヤう^ウに^ニ更^{マシ}
く^クし^シ。今^{イマ}に^ニ尾^ビ列^{レツ}も^トあり。は^ハ橋^{ハシ}河^{カハ}原^{ハラ}の^ノ西^セ
に^ニ終^{ハシ}る^ル。御^ミわ^ワや^ヤう^ウに^ニけ^ケら^ラ橋^{ハシ}も^トあり。川^{カハ}に^ニけ^ケら^ラ西^セ

の^ノ方^{カタ}は^ハま^マの^ノ心^{ココロ}も^ト。川^{カハ}に^ニけ^ケら^ラ大^{ダイ}あ^アら^ラふ^フも^ト。御^ミ
を^ヲも^ト川^{カハ}に^ニけ^ケら^ラ大^{ダイ}か^カら^ラ思^{オモ}ひ^ヒも^ト。好^{コト}い^イは^ハれ^レの^ノ後^{ノチ}
橋^{ハシ}の^ノ下^ノ小^コ西^セの^ノ方^{カタ}も^トあり。別^{べつ}々^々大^{ダイ}か^カら^ラ川^{カハ}に^ニけ^ケ
ら^ラ橋^{ハシ}も^ト。敷^シ原^{ハラ}の^ノ方^{カタ}も^トあり。か^カづ^ズも^ト。木^キ芳^{ヨシ}の^ノ
中^{ナカ}に^ニけ^ケら^ラ橋^{ハシ}も^トあり。おん^{オン}の^ノけ^ケら^ラ川^{カハ}と^ト云^{イハ}ふ^フ。
おん^{オン}の^ノけ^ケら^ラ木^キ曾^{ソウ}の^ノ御^ミ嶽^{タケ}も^トあり。ま^マの^ノ橋^{ハシ}
奥^{おく}に^ニ材^{サイ}木^キは^ハい^イは^ハれ^レ。後^{ノチ}に^ニけ^ケら^ラ橋^{ハシ}も^トあり。ま^マの^ノ橋^{ハシ}
川^{カハ}に^ニけ^ケら^ラ十^{ジュウ}里^リも^トあり。ま^マの^ノ橋^{ハシ}も^トあり。材^{サイ}木^キは^ハい^イは^ハれ^レ。

木^キ曾^{ソウ}川^{カハ}

三^{サン}十^{ジュウ}六^{ロク}

る。教^も里^も館^もとの方^もも。本^も方^もの御^もへけとて。
約^もぐしけより大^もめしてきこひあり。ゆり
あつたつ。はのみ雷^もわをこひかり。富^も士^も浅^も
る。小^も色^もあふぶ。顔^もの心^もの心^もあん^もけと
云^も。此^も嶽^もなり。川^もの東^もの尾^もは出^もけれり
井^もも。ま地^もを合^も後^もと云^も。出^もけ川^もと。中^も谷^も
の川^もとの合^もかたの合^も後^もと名^も傳^もす。は
地^もの御^もへけとて。凡^も本^も曾^もの中^もは松^も本^も多^も

と事^もいふ及^もじ。松^もさのう松^も高^も本^も多^もや
記^も多^も。松^もの。まやこひなりくしてあふ
ううさす。故^もよりくかると事^もあつて出^もけ
よま本^も多^もよま。山^も中^もの心^もの心^もなりよ
色^もさらの本^も多^も。大^も本^もを。系^もの松^も本^もに
似^もたり。松^もの心^もに。してまじこれつ。実^も海^も
の。松^も子^もあつて。大^も民^もよりて松^もふし
餅^もをて飯^もよわて。合^もと。を飢^も饑^もをた

とく。ま本横紋ありて器は倣うべしと
いども。尾列より禁制をせしむるす。実
代氏如食物より少く少く。材木減らる松人
の尾列よりわ和泉紀伊近江如人
備てきいさる。毎冬春の雪消。二三月
よひよ今十一月ある。おしそ貴ふ百令
ふしと減らす。まじい松人まじ
りりりおて。毎日まいととととすまじ
りりりおて。毎日まいととととすまじ

本曾へ通る。び松人を山中に聚る。居
候も。本城より材木に削。或は松より
て。虫穴人計あり。少く本城川へせび
く。ちかく水は流てかづれ。川中せるよ
かりて。さゆりたる。幾よ集る。松木
ておとすといふ。毎いりより水もやく。石
も。これいぬ。びかづり。本どと本者
と。して。英法の内を田如。口里川とよ。

三十九
綿織と云ふはよつる。びつよつ孫よつは
かどらつてしよのさくかぐさびせ
とむ。家よつ孫よつはら。素名斐田
へつて。斐田の内西の方よ。白鳥と
ふよははく。高よつて。ま比よつ高
人^か実とり。徳よつあつて。ま比よつ高
人つ孫よ綿織よ孫て。び事よつと
ど。綿織よの町や。本堂よつまがれ

本紙よつ事よつあつて。制^{せい}林^{りん}あり。放^{ほう}
りよつまがれ。

本曾路記上終

本曾路記卷下

貝原篤信記

上あり松より治京へ三里九所

上松の民家八十をり。けき近れ京と
ふとどれより。所より少なり。飯坊大
明神の寺あり。それよりさたり
寝ねえのらや屋あり。上松の所より
けらや屋まで。すや所あり。ま三里に
い近ちかし。ま屋より。また二所程あり。約

他町のすむねなる風流にまゝで奇
 妙ある風流なり。いさしく5244瀟々を
 にきる。むねはよもの人びと。浦
 嶋が事。日本紀よみん雄略帝紀ゆり并に技
 楽畧記こくにまゝにり。比地よりりし
 りんべ。又しり。本巻の秘がわら
 床よ。二夜のかみ秘ひのありし。ま
 きのまど人よ。あまのり。まのい。

といは世俗の徳よ。作なり。又飛ひと
 り徳よ。本巻の中はしく三徳の
 といふ。あまのり。あまのり。一
 といは作なり。徳なる書よ。まゝに
 二あり。徳よ。一〇秘なるの系
 屋とまゝ。あまのり。あまのり。の徳よ
 夫なる徳なり。あまのり。山形やまがたの徳あり。
 尺あり。あまのり。細川ほそがわ玄げん者し乃の志し

乃本名然しりし紀形よ。本名跡出跡
の跡とよ。布引箕面やどふも。おこ
くおらりやどる。是程の物乃は世の
三つ枕うづまくらよいらふおのじりる。やこりきり
次系より野尻へき里世所

は西え縁のようめ大あよそ今井
色くづまきく道うる。次系の所お
八十どろり。大あよそあよそ大あ

村より五六所おく。園山の橋坂のよよ
わりかけく。ぢり。ぢり。は西園あり
故よ実よ。○は間今井と云。あま
今井の口易さ。道平後き。おせしり
野尻より三番跡へ二里す

跡尻お敷め千許。志田村より十所
程かてい坂あり。そよ先よ橋二あり。一
標えん千あり。ぬてんのけしり。元信流

四十五



踏ハ皆山仲なり。枕中本巻の山中
 は深山幽谷とてこのそいほくひり
 約げ緒多し。対支那尻とんとの
 間尤あやうき踏なり。けりたいたは
 せこののわさりしれまづりたる石か
 さるると約。太ハ教十間さだげと
 屏風を立ころむたるありおかく。ま
 下の本巻川の流さるも也げりかけに

多し。まふよあるを成ぼし一本嘗乃
かけしうらあやしむまよ川のよ
ようきくる橋よわらびぞいのるのこえ
らるあふりける橋ありりやうれを
はし夜寝たどに多く。他まよのうや
うのかげしすれちりこの尾流とい
くまはらりて。若ら入又先のよれ尾
をまひらあ多し。あ中らたるの甚し

けらふ中柄とらああり。まじういよ
垣及とまあま。まあま。若川ちがまこ出
しういこわし。あまふ人あまここ
とん好系かり。又ま下たの方。横
河戸とまあま。若川とくより流る橋も。
横河戸のまこつ。又うけし。曲
尺のまはらりてうまくる橋也。若川
乃真よ横川とらま村あり。えけし申の

橋ひくく〜と。尾列君よりうきまふり
を流り急甚多〜と云

三留野より妻篠へ三里半

三留野は民家六十軒程あり

妻篠より三留野へ二里

妻篠の西乃山名の橋より南はなほ
及あり。流もち越と云。これより流もち
と云。六里あり。流もちより伊波へ

行乃甚険難なり。伊波より米を
流尾法へ出ると云。又是より伊波へ
り。大門嶽と通り。飯盛山の下と云。そ
窪田へ出り。○妻篠より本芳川西側の
方に去り流もちなるは東もよ約て妻篠
嶽をこゆるゆへ本芳川と云よ。さき
と流。是よりけりめく本芳川をくか
る。妻篠嶽と云え。る流よりこれ本

本芳川

四十七

曾の山中と出る。はるけ坂。本方の湯
坂なり。俗よりふる岩と云。又風越乃
峯もはるなるりん。も前分ゆるい
づまのくも也。本方後も。本方れうけ
ゆる。本方後川も皆ゆる前なり。いれ
まも古より多し。元本方の山中。後川
よりふる岩とてサ一里も。本方乃若い
こもあふあられ大いそ。石大しう

ま。坂より形よく急とくれ。若中せ
むれゆる田畠なり。て。村里とくか
し。米大豆い松なり。り。粟あり。山中に
茅屋なり。して皆板葺也。ままいげ
ま。ゆる土壁なり。い。か板壁なり。元
佐治より竹と茶の本なり。也。ま。ま。ま。
ゆる。極れたる。地。ゆる。ゆる。竹と。ゆる。
物。ゆる。皆。本。と。月。物。中。桶。の。繩。ゆる。ハ

松本と月。茶の他。茶より。茶より。○
那尻より。下。竹。茶の本。少。え
より。那尻より。東。唯。日。茶。その。り。み
は。ん。び。那尻。地。衝。い。て。茶。法
み。道。く。川。上。より。少。温。なる。あ。也。又。佐
法。よ。蜜。橋。榎。合。橋。本。茶。一。か
し。毛。茶。ま。ま。さ。う。地。ゆ。り。茶。六
月。は。茶。と。し。中。橋。も。多。し。と。よ。も。他

松本と三月の茶。比。一。河。ひ。く。
又。南。山。の。松。と。て。冬。の。茶。の。こ。と
く。く。茶。ま。ま。本。の。松。あり。茶。松。と
る。茶。より。茶。法。四。合。一。茶。里
る。茶。の。民。家。廿。七。八。軒。より。茶。り。い
中。ま。所。あり。茶。合。の。茶。乃。入。口。合。橋
と。り。ま。茶。佐。法。乃。安。茶。と。茶。法。の
さ。う。い。也。毛。より。茶。い。本。茶。も。茶。安

畠野あり。九修溪の東の上野。南々
甲斐を以て三河の越後越中。越後
あつた。英溪あり。九八ヶ岡。漢家。玉
のちがさ。うさし。巖いわらり。英溪いんせきはて
東の甲斐七里餘あり

落合

英溪の東を那
毛よりいへる

より中津川へ三里

落合の民家九十軒許。これよりあり
於坂あり。いれども。改源かえん山の中を

て。嶮難あり。とてをやとくあり。本意
をわく。家よ。いれ。先我まが家や。ゆり。云
より。地とる。唐の侍人。雍陶が。西
出。斜谷さかの。行遣。嶮あや機は出。慶斜けいさ出
盡平川。似到家。無限客愁。今日散馬
取初見。米囊いね花はな。と。けり。い。り。水。は。あ
合の。も。あり。大。山。と。横よこ長なが嶽たけ。と。云。ま。げ
山也。南本。れ。城。水。と。る。ゆる。小。た。ら。き。こ。

のふあり。本芳川城も筑さうれ。飛浮
川水よかぐる。今いきをふ和泉なる。長城
かり。総枕一万余千石。洲。高合と中津
川の道より水よ。祓ごめ。廿里あり。右
西也。一説よ。枕。津川の上。中森といふ
とりのより。つり

中津川より大井(二里)六町

中津川の町民家二百餘あり。根は乃

甚平たけひらの塔たあり

大井より大久おほくの(三里)す

大井に民家百廿軒あり。中務村よ
つと老へ尾列おしり名護屋なごやへ移り乃あり。毛け上かみ坐ま
乃なとて台たいへりゆ。大久おほくの(右)り道
水の方へ移うつげ。ふる。西さい行ぎやう坂さかとて坂あり。
西行さいぎやうの墓かぶつあり

大久おほくのより細こ久くの(三里)す

の林下

地十二

大久子の家三十戸新井大久子細
久といひしやうやくありまふなり所
ありばるふ琵琶坂とありじ坂の上
より良の方には木當のふけけきなり水
ぬか笑れ白くくくぬる白くいぢりか
あり禁まてちあり。毛回本三番乃
きりあり。飛騨のふありよりあり又
け地りあり候とふあり

細久子より清嶽(三里)

細久子の家六十軒あり

清嶽可思那より候見へき里

清嶽の民家百二十軒程あり。町のふり
これ方の小く。善王権現の社あり。
吉野は善王と説きつけりや。吉
那を清嶽といふ。け室とありけ
と名付たり。あらん。由嶽の町は東乃

とらぎより西の方。乃とらぎに初て並
本の松も。東海乃わし。是より東
まは乃とらぎに並本の松あり。市嶽
より西へ平地あり。是より東へすて
山あり。所の海とらぎの方より見
れ。大ちとて大なる業師。書まじげを
不見。那れどかくみ付まじし。げは
とらぎにやうれ。大ちいれ。じち。石

石 云儀より跡

伏見より太田へ二里

伏見の所。及屋宇千許あり。町より花よ
名を屋へ引乃も。太田の宿。其東のさ
りふ。太田川あり。其後なる。太田川乃
り也。其のくくく。大川あり。其の
子。太田より一里川上。合
と云。其を太田川。飛深川といふ。

落合おちあひなり。飛騨川も大海ふれども本
若川よりあそし。若田川の下尾越川
なり。若田川より東の方不可見也。傳之の
をききん今山の城ありとも。佐長のよ公の臣森
三左衛門曰武藏守居城なり
若田より若田わかつた二里

若田の宿しゆくを敷二百里平朝程も若田
に宿乃上なつてまて船ふねをかりて来る方よりある

若田わかつたは武蔵守居城なり。若田より二里
の方に土波つなも。みふも也。古方も。じりし。其
流乃土波氏住也。若田より右古屋へ
九里あり。○若田より一里水は物屋と
り。又も。げきこの村より橋はしと持もちとす。
ちや。出る城しろげづりてはり橋とす。其
流の片々し橋はしはけきより出る。物屋橋
と云。物屋は町なり。○若田わかつた紙かみは若田

の北^{あき}乾^{あき}よある武^む藏^{ざう}郡^{ぐん}より多く出る武
藏^む郡^{ざう}乃^の内^{うち}ひららの谷^やとてひらき合^あら
はきより結^{むす}よ多く出る尾^お別^{べつ}君^{きみ}の庄^{しや}飲
内^{うち}あり○関^{せき}のち田^での水^{みづ}二里^{にり}まふあり
ひらき所^{ところ}也^{なり}波^{なみ}阜^ふにつぎり高^{たか}人^{ひと}多^{おほ}し
中^{ちゆう}徳^{とく}方^{かた}より常^{とこ}物^{もの}よ出る水^{みづ}也^{なり}比^ひりより
船^{ふね}治^ぢ多^{おほ}し少^{すく}力^{ちから}船^{ふね}治^ぢも船^{ふね}かへ今^{いま}十^{じゅう}四
人^{にん}位^ゐと郡^{ぐん}といも水^{みづ}也^{なり}郡^{ぐん}との内^{うち}八^{はち}幡^{ばん}と

りつあり。堂^{どう}右^{みぎ}信^{のぶ}徳^{とく}も教^{しやく}居^い城^{じやう}あり。関^{せき}と通^{とほ}
るゆきと内^{うち}より八^{はち}幡^{ばん}へ上^あ二^に里^りあり郡^{ぐん}とい
の中^{ちゆう}ありる三^{さん}万^{まん}石^{せき}餘^{あま}あり○左^{ひだり}田^での坤^{くん}
よ向^{むか}ふとて山^{やま}も水^{みづ}も下^{した}とて山^{やま}のを本^{もと}
若^わ川^{がわ}ながは。取^と組^{ぐみ}とり又^{また}本^{もと}若^わ川^{がわ}
に流^{なが}るる船^{ふね}も山^{やま}のゆよとて
あふいと云^い又^{また}人^{ひと}坂^{さか}も云^いふのそいれが
けたもなるがけし二^に水^{みづ}也^{なり}危^{あや}し。たの

五十六



下い本町の川がれ。川邊の雲多くはく
 ありて見え来也。好景也。河灘よより
 藪とほらる。舟物やくららる。意あは
 ぬ。舟れくららる。舟が如し。是又よに
 見物也。さうさう。坂は長坂との云
 坂あり。さうさう。乃ふり。即新治也。本町
 より。右回との間。乃農人。とら。一とあ
 り。と。新と。回と。す。此。町。と。見。る。

る也。どらたの念い本の枝れど〜と耦くわ
耕うがをふる

精治よりか納い一里十町

精治の所。お殺七十許と精治のあれ方
母い大山の城らう〜とぬ。もろろ十町ぞりふ
まゆりまゆりてゆゆ一里ととと成なり成なり年
人正しんの居城也。大山の城れ水の〜と本為
川がが流は。○後拾遺集あ東の方か（まゆりて

くるふ。うらほ〜とあ〜と源みな源みな事こと落おし
〜と〜とほ〜と〜と〜と〜と人のぬれいな
〜と〜と〜と〜と昔むかしよりうらほ〜と〜と
〜と○大山がむの方小牧こまき（三里小牧の
か〜と〜と〜と〜と〜と〜と。大山と小牧の
小楽田こがく〜と〜と〜と大山よりある一里と小牧
の二里と〜と〜と〜と次つぎ乃すなはち宿しゆくよりあ〜と
これなる前とて所ところす〜と〜と小牧も楽

田と。秀吉の討乃降也。おねらるる吉屋
一三里も。精治よりあつるやハ七里のま。○
精治よりあの方より中ハ監輿あり。そ
より東江戸日えとのろよハ監輿は。但
上羽の坂中ハ監輿が少し。そハうすい。足
あつるゆ也。精治のあれらるるよりあり
度き。移り。各精治と云。げも。各精治
かろぐ。移のやハ各精治と云。村のり。各精

移り。一三里。方ハ。三。他。事。也。三
里。ぐ。り。あ。つ。一。里。す。程。よ。ゆ。け。移。よ
田。島。あ。つ。て。ま。つ。た。の。ま。じ。移。の。あ
よ。二。舟。ハ。こ。も。つ。り。あ。つ。た。も。本。勇。川
の。ま。じ。す。で。移。ら。○。新。か。納。々。納。々
一。里。お。ふ。ら。お。ち。る。所。も。精。治。よ。り。か。納
ハ。の。ろ。也。そ。ま。ま。本。年。波。阜。の。勢。と。味
方。は。徳。丈。お。と。合。戦。の。あ。り。

五十九

か納 安積郡より合後一里す

か納の所は十八所程を。今の安反右系
を反長城也。か納よりある平田より
ある。故よりの事か。田畠よきんき
むとりの事と極くるの事とす。けむ
筑紫より入る事と云。又よりて田乃
こ中よりす。そよりうみ古屋八里波卓へ
一里あり。波卓のそよりあよあり。波卓

一よりいづらふ一里ありの海り也。波卓
の所ハ人家多くしてひろくも也。海の高
人多くあだく。波卓に稲葉あり。名
あり古あか。ゆ平のまわりい
あどのことよめるまけりありとら
因情より河の奇なり。因情のまはら
かるぐ。げいあだふよあじふありふ
因情のゆ神とち社なり。ま殿は藤也。

つたあつた

六十一

け地の京系都の清あり。あつとらに
うへくあり。すくけ山の京甚し。
改阜の北最佳處也。系都の風景のこ
し。土地も小石あり。系都乃地のご
う。改阜の山成とくくあり。とらふと
りども。物中因幡の社れこの山也。岩に
松多し。改阜八周の改山あり。とらふと
けしと也。昔舟後新與り城也。そけしと

ハ編桑山と云。佐長とくうりあり。とらふ
改阜と云。有見形也。○佐長との城あり。は
りあり。この山あり。城乃大なるあり。
城とく。とらふとく。千尋の山。城下
に今よ澄の山あり。とらふとく。所の外郭
あり。とらふとく。佐長との所乃城のり
ま。とらふとく。佐長との山あり。小石城とく
ひら。天正四年をこの安土の城とく。

ついでに
ついでに

その後佐木の嫡子織田城無任たのみ
中納言秀隆に城を居領し多し波卓
中納言と稱す。其も佐木年石田三成
みまとして城を佐木方の徳左衛門の
に責務ある。○波卓乃あるれ川と佐木
川とを川とよも佐木村ありゆ也。
波卓乃あるのがより河をよわき
てあぐる。波卓の方よわきく枝河

てあぐる。河の方とあぐるくは河めて
あかり。波卓乃方への舟のやび。あ方
よみの佐木川と云。合後乃十町より
川と。梅がちのやよりとあ川一は合てか
ぐる。波よ合後と云。上のりきしこま
あより。下の流合あまで一里許あり。
こららの中流して七村あり。波卓より合後
つゆよ。佐木川よそまきく。け川み

難多し。あいのりて轉せつらば。此の難
江も亦ど。考まも。年國系存のあ。
八月廿三日。波阜の城を攻め。河大橋の
城より。款出せしむ。りんとて。合後の川
の病まで。考まり。り。成。此方の。法。大。病
川と。り。て。款と。追。る。り。り。合後
乃。當。れ。あ。い。の。ま。ら。り。り。材。も。款。け
と。う。り。は。せ。か。く。し。久。長。り。り。と。云。合後

川の。あ。後。も。深。く。十。尋。に。あ。ま。り。り。と。也
我。け。川。を。り。り。り。河。每。の。よ。あ。く。三。間。乃
竿。と。と。す。ま。よ。り。り。り。川の。あ。れ。り。志。り
り。あり。洲。の。股。川。乃。河。上。也。○波阜より
合後。二十。町。ご。り。り。病。も。よ。り。て。か。納。乃
乃。よ。出。度。く。湊。の。町。あ。り。り。○波阜の
あ。み。席。田。と。り。り。り。り。那。の。名。也。り。り。也。
又。波阜の。水。三。里。許。川。上。り。り。田。の。水。砂

あり名水なり

金澤より^{ええど}三里六町

合後の所お教三十字交りなりあり
○いほぬさ川けつらふらふも古寺
多し。席田のいつぬさ川とよあり。席田
の形も出る川也。本田^{えん}と云村の色あり。
大河よりあはに里の人からぬさ川と云
るはちり^{えん}板(三里八町)

美濃の所お教六千許あり○美濃
乃水守里小。高素材と。地より水の
多く出る所也。高素材と云はれは
名^めて^す高^{たか}と云。只一^い條^{じょう}なり。
ひらより毎年^{まいねん}所の河戸へ^{かほ}と
高素材^{たかす}所か。松林^{しょうりん}乃ありあり。
六乃より^{むの}ゆり也。○若汲^{わかつく}の^み水^{みづ}より
み里^みより^りなり也。千載^{せんざい}真^まの^の寺^{てら}あり。

山中はく若くくたさしやんたのれとち
 おさじり西才三十三番の観音あり○
 長久村よ長久川とて大河長くいせ川
 とて毎後一也。合後川よりい小なりと
 ひとよ。あ深くして川の流ながれなり。飛騨山
 の力満ゆ乃郡とより出る川也。けま里
 下と依後川とて。依後村い川の西ふら。
 依後川乃東よ結村と。大柳より洲の



依後川

大柳

殿たか一筋なるものや小社も結の神と
り。名も也。ちち多し。是も岩之下りま
下也。○沈尻村けりふあり

赤坂より桑井くわい一里十二町

赤坂の水くさ屋やをくさ山やまよよ屋やをくさ堂どうも。
赤坂乃宿しゆくひじしし熊坂くまざか乃の去しゆ籠かごが源九く倉くら
義よし徑みちよりなれる也也。去しゆもも去しゆもも年としもも方かた
の市いちをし味あじをあじ山やまのの赤せ坂さかのの南みなみにによよととひひままく

山あり。大坂の方かたのの山やまよりよりゆゆけけ河か務む
山と名を改かへせせむむひひくくよりより。今いまももひひららと
ししももももいい今いまもも 津つ殿でんもも○去しゆ墓かぶらら
ひひりりのの桑くわい井い赤せ坂さかとと同おなくく宿しゆく籠かご也也。今いまのの小
里さとちちりり所ところななしし。今いまもも也也。去しゆもも去しゆももがが屋や
去しゆのの跡あとととありあり。赤せ坂さかのの社やしろいいまま墓かぶのの西にし
にに乃の水みづのの谷や乃のととくくいいまま海うみ乃のもも河か又また町まち
ありと云いふふ。赤せ坂さか八はち幡ばんと云いふふ。赤せ坂さかのの山やまと云いふふ。赤せ

ついでに

赤坂

長の墓あり。また墓のあり。また野村あり。
また野村あり。また野村あり。また野村あり。
坂の北麓に松とて大なる松あり。
赤坂よりゆけば南より由。大坂よりゆ
べゆよりゆ。赤坂の少あり。川をたて。大
坂の南より赤坂の方。本なる路の北ゆ
くる。ちりきり。ちりきり。ちりきり。

赤井より西へ一里す

赤井のをたて。小坂より。小坂より。小坂より。
後川乃記。曰。文和の以後。光嚴院南軍と
たて。後して。小坂より。小坂より。小坂より。
民安とて。律院より。小坂より。小坂より。
おん。二条良基乃。小坂の。小坂の。小坂の。
書も。けつ。けつ。けつ。けつ。けつ。けつ。けつ。
り。足利義詮も。けつ。けつ。けつ。けつ。けつ。けつ。けつ。
護とて。赤井も。赤井も。赤井も。赤井も。赤井も。赤井も。赤井も。

の宿は南ふ南ふあり。長徳の中心と
いふ名所也。石段の中心と云ふも、
うしろにもひろき石段あり。その中
ありゆへ中心と云ふ。又市社と云ふも、
乃社有ゆへなり。社いふ所の藤はもと大社
なり。東よじつり。もろもろと云ふ所の
中の南ふあり。もろもろと云ふ所の
合ふ彦大神と云ふも、社僧十二坊。社人

十二人あり。もろもろと云ふ所の社人
飲三百石。公儀より清寄附と云ふ所、
藤のつら。安國寺堂に藤をうけ、
焼くもひろく。もろもろと云ふ所の
清建立あり。今も所のまう也。○多岐
いふも、ふのちも、いあり。もろもろと云ふ所の
伊勢の多岐と云ふも、もろもろと云ふ所の
もろもろと云ふも、もろもろと云ふ所の

○栗原の境は。足尾國南寄郡多摩山
にあり。續日本紀より。今も
ふりたり。ふれ。少南の若くも。下
よひり。み。あり。も。ひり。み。の。也。
ふ。乃。あり。也。○栗原。ふ。も。ふ。の。
東。れ。も。也。も。ふ。ふ。も。つ。き。り。少。し。
し。も。下。に。栗原村も。関が。栗原の
ま。も。我。部。土。佐。ち。海。せ。り。○

上の里名。あ。ち。り。古。あ。か。り。今。は。民。家
か。も。栗原と。関。り。栗原の。也。も。も。に
鶴。の。ふ。も。も。も。上。れ。も。も。も。
つ。も。も。栗原あり。少。家。と。と。朝。あり。も
乃。少。も。也。天。武。帝。も。栗。と。は。も。
関。が。栗。り。今。例。へ。二。里。
栗。が。栗。の。も。も。に。栗。も。も。も。栗。行
中。氏。乃。栗。也。栗。も。も。も。栗。の。中。に。

栗原

栗原

善徳といふ水あり。河出云の長竹中津
坐湯坐治の番松也。○園が東れ谷の原。
南水乃ひらさ九八九所程よこゆ。乃よ
り南ふらの水ほぐ各四所縁もあらん
。所の東れ所。けみ十年少あまもぐい
本もふくてぎもぐや東ありしが。今い
林のごく本ども多く生えまわりの○
園が東れ所の中。水の方に八幡宮あり。

とまの乃い。即越前も獲へ。海園
海道なり。とま乃とゆくと。八幡の社乃後
乃所。園が東れ所の対乃合戦場也。小園
村も水必へゆら。園が東へ近し。
小池村も小園村の少さなり。園が東
の西よひとこ。とま乃の。か
か。とま乃天後山。とま。○松尾山。海乃の
南のり。道よりかま。園が東れあり。

の方也。園が東に存し、此は統志中納言
 秀秋の侍也。さうふれよよ侍とせられ
 し也。さうの城ありて、さうの山ありて、昔に
 石波の内子居城なりと云。○あまのふの
 ありて、波との山ありて、さうの山ありて、
 とる波との山ありて、さうの山ありて、
 わしよりひもとと云、さうの山ありて、
 へるさうの山ありて、さうの山ありて、

て園が東の海よりありて、さうの山ありて、
 牧田と云、宿、今例より二里と云、故よけ乃
 と牧田ありて、さうの山ありて、さうの山ありて、
 宿ありて、その山ありて、さうの山ありて、
 垣の南也、角末より河、船よ、糸、素、名、も
 たりて、さうの山ありて、さうの山ありて、
 江戸へて、さうの山ありて、さうの山ありて、
 つ、今例より角末より六里あり、園が東

軍のお乃萩。大垣の城乃款中にて。いそふ園が京乃西へ返してける也。と云。大園村は実が京の所が三所なる事也。そる彼の園乃有る也。大園村のあれはつまに川も園の着川と云らづ。まは名も也。信よ着子川と云。○あまふ乃あるよ多結しあり。そらんと出た多る越と云。を江の目野との方へ越る也。

園が京疎野と一河津付夜返るはひりたり。かり。○園が京と今洲の宿れ同よ。中乃里あり。源の義経の母孝盤墓と云。乃の水森あり。水あり。○伊吹といはる。流を江乃境あり。名も也。伊吹の里いを江也。山のあやにあり。そもくもあり。びり。天皇天皇の兵と。大友の皇子の兵と。我有り。ける彼の園也。大友の皇子は打まけ

多し。天武天皇を帝位よりあはせ、法皇の
の天皇をさす也。孝徳天皇元年、凶徒を亡りて
天下と治めり。すは地也。古今たふえ
トなるのつとまし地也。又、新羅十三家の
時、東部乃我より新羅を討て、國をさへり。後
いと平家の土治平吉兼が、約あはして
生捕し、と國づ東たり
今測り、柏原へまじり

今測り、柏原の同ぬ。まじり、すは地也。又、小里
あり。まじり、近江のさへり。車づ
たり。あはし、をさへり。後、ありあへ
まじり、小里をひらき、國をさへ
て、後、まじり、すは地也。又、
西を、祿のの、まじり、すは地也。

柏原 江列坂田郡 より 碓井 へまじりす
柏原のむ、六里に小里あり。及より、まじり。

山下に小石と云所也。水出る所の宿也。と
又磯松と云。じりし深井宿也。と云。政長也
碓井より番と云。と云。里

碓井の宿いし中。也。水より川あり。と云。川上
は。里。田村も。碓井より八所也。鴨乃と云
明が。あ。一。首。あり。は。あ。と。と。あ。る。あ。又
徐湖のうも。れ。も。ふ。も。里。田村も。碓井
の。あ。い。ち。ま。ら。ふ。成。ほ。し。あ。也。じ。り。日。本

武蔵東征しあひし時。伊吹山より大蛇
を踏くも。り。あ。ひ。し。に。中。に。も。も。勢
れ。ら。て。も。れ。り。さ。ら。も。り。じ。が。さ。し。と。あ
ま。ひ。く。由。ん。地。し。ぐ。ら。い。あり。た。れ。を。け
あ。と。の。も。て。即。碓。多。し。ぬ。是。に。よ。り。て。碓
が。井。と。い。ふ。さ。の。腰。り。ま。さ。あ。る。あ。ん。日
中。武。さ。の。系。行。天。皇。に。由。子。仲。哀。を。皇
乃。由。父。な。れ。ど。八。幡。の。祀。又。あ。り。碓。井。か

長溪へゆきあり六里あり。長溪の湖の
もとあり。所も。素きとも。修長と乃河。
初に定ふ居あり
書るより鳥居をとまき里十所

りし書るに今の書るに宿の如くあり。
湖のほとりに米系といふあり。大津。貝津。
塩津。あつより。舟はく。淡たなり。大津を
米系まで舟行十六里あり。米系より

今の書るにゆるるあり。け敷よりし書
るに所と。今の書るにうけして立りあり。
米系へ一里あり。米系より鳥居を
里中あり。○鷹針。嵐の書ると鳥居を
乃宿のふるあり。湖の眼を以てふるあり
好系也。竹生。橋のそよりいぬおれ方にく
ゆる。橋はまづり一里あり。めぐりのはる。屏
風をまきらぐくならる。岩也。社あり。橋

坊あり。其家あり。元湖の中に三の坊あり。竹生坊あり。丸山にあり。南に奥に坊あり。竹生坊あり。又丸山とて。武志の宿のいぬいの方。丹湖の中に一坊あり。これ二坊あり。少地はけぐり。鷹針岩のトに海あり。ふるあま民家あり。磯と云。是より湖の方一里あり。馬岳より一里あり。

昔いふは多美。羽津村を居あり。ゆゑを居あり。と云。湖の古城へ。ふる居あり。にあり。是を松山也。石田治部が城あり也。関が東軍の聖日。げ城を攻め。是を居の城あり。あり。ふる居あり。ふる居あり。ゆるべ。湖の古城の山を越ゆ也。ふる居あり。ふる居根より一里に近し。ふる居の湖乃ふる居也。ふる居根。ゆるべ。ふる居根の乳母あり。

奇あり。園が東海乃後沃山の城と治
部少補が終死と。井作吉部及よき後い
つしう。きよき九年沃山の城不宣として
老根よ改く城と築しありよ。是の終
反死去の後たり。重井よりき。岳本
乃同七里い山中なり。小孫の宿と鳥
岳本とるまの房にありき。岳本
とるまより志智川へ二里

とるまより多賀へ一里あり。南ふあり。岳
多賀よるま大明神乃社あり。伊勢諸
岳也。岳本と岳本の抄り死あり也。とるまか
老根へも一里あり。とるまの所よ布と
多くう岳。とるまよ志智川乃るるに。て
らとり村といふあり。あはのぐくは
づり岳本多く地りてうはあり
とるまの所乃るるの岳よ川を大上川

と云ひしにわたの船なり○さきまの海
乃大心と和河と云ふものなりを其
ふと云ふもちからと云ふは
さきまの和河に親者もさきなり。さきまの箕
作と云ふも皆をその國中みよと云ふ也。甲午
九渡と云ふ所はなほあり

北智川より武者ノ二里也

北智川の宿れあよあり川を北智川と云

後村の寺あり。親者もさき北智川と
武者の宿れあよあり。このもれ方乃藤
と云ふ所。さきまの親者もさきあり。二十三
所乃北智親者なり。傍所あり。親者
堂よりよみ所と云ふ友の城也。代々
定よ居城と云ふ。城の大小いも方はさ
親者もさきのじつと云ふ。又六所なり。其
の城はあり。最たりと云ふあり。その所は

義秀の一族。依々本義禎が居候なり。
親者ちふくひくさきも山也。建初の祚
ハ箕作との東にありにあり。○武曾の
森ハ也智川と武者の宍のらふも。親
者ちふくひくさきも山也。武曾の
あり。海原のとも也。むろ村よ所あり。
けわりのいともいへり。よのありも地を
あう。やうそは。善のこく。柴は柴の

くらくらふ似たり。こも中に木の枝は有
りあり。穴を付れはよくもゆる。里人これ
を掘て藪といは。穴をよくなると云。里
人々もとびく。れ栗の木は葉ありと
り。いづきも物也。地列よも入まれ。い
物あり。昔びもよ。えたる栗の木あり
と云。續。商陽雜俎。東海よ。大栗を
こいり。あけ栗の事。や。い。い。人あり。

安土の城跡と観音寺との山あり。近
 依る本天の社の社い安土のらじ。観音
 寺と乃成まは方あり。依る本天の
 寺の社の社也。延喜式社名は。近の
 浦生教沙々貴神社とあり。安土も依
 こ木の社の名よりんこと。依る本天の社
 い大さの社の名をいふるあり。名はく
 毛仁徳天也。依る本天の宇多源氏

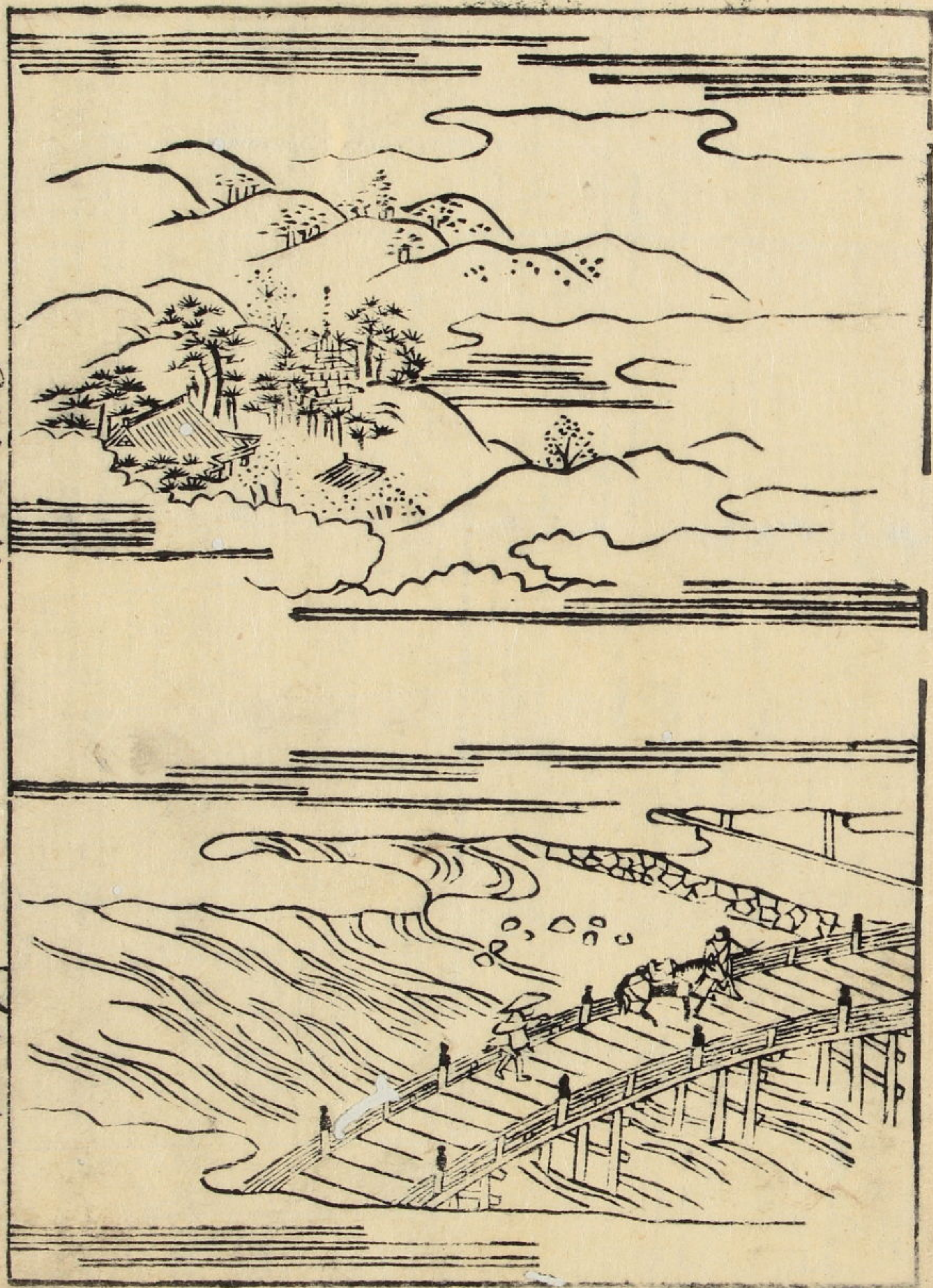
なれど。そ社社よハあり。されども。本天乃
 社なり。そ依る本天の社あり。也
 武者より守ふ。三里也
 後山も武者と守ふ。のりふあり。也
 乃方よりじうん。後とそなる。ご
 こと。後山といはる。名あり。山下に後
 岩あり。人おかり。後あり。されど
 こと。おかり。ご屋おかり。武者より

あり。行末この所乃屋敷あり。八幡と新洲のあり。其系といふあり。い懐八所いりき事大付新あり。富る商人多く。徳の幸福あり。く来り。美洞沼ふして。町乃中八幡あり。秀吉公の。次の居機あり。秀次とを江中納言と稱す。安よ居機あり。ゆかりは町

て敷帳と抄あり。深くうは。坂江戸へも安よは。うは敷帳抄あり。安よあり。越智川二里あり。回よ依よ本太の社あり。その皆中道の言あり。守りあり。守りあり。

新洲

八幡



伊豫東の里に守りて暮すはのらみあり。
 又けりふらの形ありうみあり也。神路の暮
 はと大けはらふも。げきより比良の
 なる^は峯。比^い敷^えふ^のま^ま。時^ま田^まれ^まう^まま^まど
 ころ

暮すはより大け入三里す六所
 常田の橋乃下れ川々。を^あの^この^ま中^の水^こ。
 とく^まの^ま湖^まは^まく^まの^ま末^ま流^ま也。そ^まより^まう^ま

治くろがまは後とさくく江のりてけりまは
乃國神崎川十三川ち坂の川よ出る境
多よりるらんま里館あり。石ふれ下に
佐津の瀬あり歩みくもけりといふ
ま下にかくさびといふありまま岩の間
ぬち海なるれま岩のりらうといふゆへ
けりあはさび海らとま。○堂若ハ船多と
る心のり也四月下旬のけけりるより來

ぶらわらサびしく飛ちて橋ぬわ
ぬさじらり。教方の堂一ありありま
丸くわたりててまあり。まありまあり
のよまあくらけらといふ。毎夜かくのどし
漸日とせりく川よりる。うろ治まてい
又月上旬のけ堂多まといふり也といふ
○勢田よりまけのれ乃近まで一里あり
り。まけ松本殿おけといふ所はま

八十一

八十三

と高やうはく別なり。移多と膳所の間
粟はが原也。今井四郎益平が墓あり。本
首義仲乃墓ハ。膳所の民家のうらに在
乃のも也。枿の木二本を立付しに在。枿
ゆけ、溪膳所あり。ゆまれ社食を個
ふ所也。あり。枿の溪と云。又膳所と云。
松本の色湖のうらに太比叡の山坂中ハ
五右衛門志賀の墓あり。一松。三井ち乃

上の色湖はうらにござりて。ね、赤也。大付乃
赤也。此湖の色也。赤也の溪なり
大付より赤也三里
大付ハ水津乃要地也。赤也奥列を好
より。赤也と赤也の物をね、のきそ。
越前敦賀ハ。はくハ。敦賀より。赤也
て。赤也赤也七里。赤也山路と云えて。近
江乃見は。赤也。赤也の也。湖と二十里と

八十五

八十五

るべく大付一巻く。又未をいふを西の
こよりもしは地は紅花くぬ。はざい。一園屋
町富家抄をく。札の通りより水は約バ
水西なるあり。と舟ききる。観音は静しく
と。是よりゆぐれ乃は八所の坂甚はざ
りきき。西の八所坂の者も園乃明神
あり。は神の蟬丸たふと云り。あつし。は
社乃あつし。小園の法あり。とてあり。但右

人の後よ一園の法あり。は西のそり。あつ
ばと云り。たれ方は園あり。をせんよ
びう。相板の突あり。あつし。はよのよ
いあつし。と。園乃小川もは。あつし。ん
あつし。の。に。ま。あつし。あつし。い
し。は。ゆ。園乃小川の。あつし。は。経家
の。奇に。紅井。よ。園の。小川。は。成。より。あつし。音
あつし。よ。み。から。散。し。園。よ。あつし。と。相

坂山あり名不也○大井と遊分れ大
谷とつふよ。遊分れ大井とつふよの方よ
れまた出る井あり○をわくと山越乃境
大井と遊分の名。遊分れ大井一所より
大井の西三所にあり。是れ三ヶ所
東三ヶ所三ヶ所の境なり○遊分の東と
伏見へゆくらまも也所あり○遊分より
南は方よ半の底山あり。遊分より

きくよりゆまげきる所の境ありと
の遊分三ヶ所よ。け地と清ありと
敷山とふあり○山科の里はすべて八郷
十八村あり。東は八ヶ所より日の出は
一里餘あり。北は津原野より一里餘あり。
とて方一里餘あり。宇治乃郡あり
○大井の西は十餘師田のまはるる
大井の社あり。小園越へゆくらま

ありそよりゆく越ゆきい三井ものも
出る也○山科の酒は由後村より天
智天皇に由後あるあまひきこの所と
由麻野と云津之洛の河系郡町の
家をもども皆し野は由途よ出て許得
しすり○あのかの取のよを日の息といふ
たうげのよそあはあの方へもる夜を
ね返と云○うんが押くろんと云雨着

乱世の宮にては賊人を殺し衣袴
とさむい一と云そ付は白登よも一皮
人へのびさうりしと云ん○松坂よ義経
のけあむむああり○栗田白ああり
東へ出たかりたよまき道院津門跡
あり。たのらよ一む家よる乃よりい
んしどあふむ録もい思名吉田白川
乃方よゆく乃のよ栗田山ハ名あり

○白河橋は川を白河より出たなり
知恩院紙園法ある道あり○二条の
大橋より東へ入りけ川に架る川
乃下あり○日の巻は東に耕乃内
も方へり又西乃方へり越へり
東に又東へ入るありある
越へり越へり越へり越へり
奇れ中山清宗は清宗は下と
奇れ中山清宗は清宗は下と

○追分より東へり越へり越へり
勅修され茶屋を越へり越へり
大泉寺といふ那なり茶こぐかどう
ふ所ありそむ乃方小勅修寺門跡
あり由の松の巻茶屋は水の乃乃こ
りしたま道は茶屋の神社あり
是延喜の帝の外祖又母なりは
ハハ活物格よりなりある坂と越へり

ハ後の森乃社の南に延りて依りて
入海

岐祖路紀の後叙

岐祖路キといふ程キきしよりも道
けんと申すけりてとあれと
所なりとあれと次々井川河部川
たものこと記述ありとてこえり
取乃と申すれく又森乃新ニ江を
のこちなる海ト海トなりと申す
と申すけりてと申すて修徳

岐祖路

後

の内四十七里の内中一たるゆへに
なれと箱根のこもりしきり
山の中ありけしや人の公とれ
多しとありしとありしのもて
方よくしけれはまめやふら
るるも器もけくくありと
川のくもら林木のくもら
まうはくくして目には目
はくくして目には目

かき約人すくれくして
まねと道の中りしきり
けりありしと人馬のら
竹輿の目も鞍けしと
あやうありしと只十二
あうして約くくして
くくして約くくして
くくして約くくして

山崎

山崎

ひね又さぬくまゝのどかたは
しりてけ道をとわりつくりし
おひりけとよれたるしきりぬを
月に見開せし紙いさう後乃
あつてふとんとてさゆさうに
人よきうの書志紙つくり我
一人のらまひのあつたれいも
まてる事たりしつらるるゆかり

らんいうく終へ後のまき人彼道
乃て紙志れつりれおらるる紙
ねとかりしきう人おとたけま
寶永六年八月

貝原篤信書

京六角通津幸町西入町
書林茂本多左衛門板行

本邦海道宿付

才たらんんんん二
室永ヨリ二

三

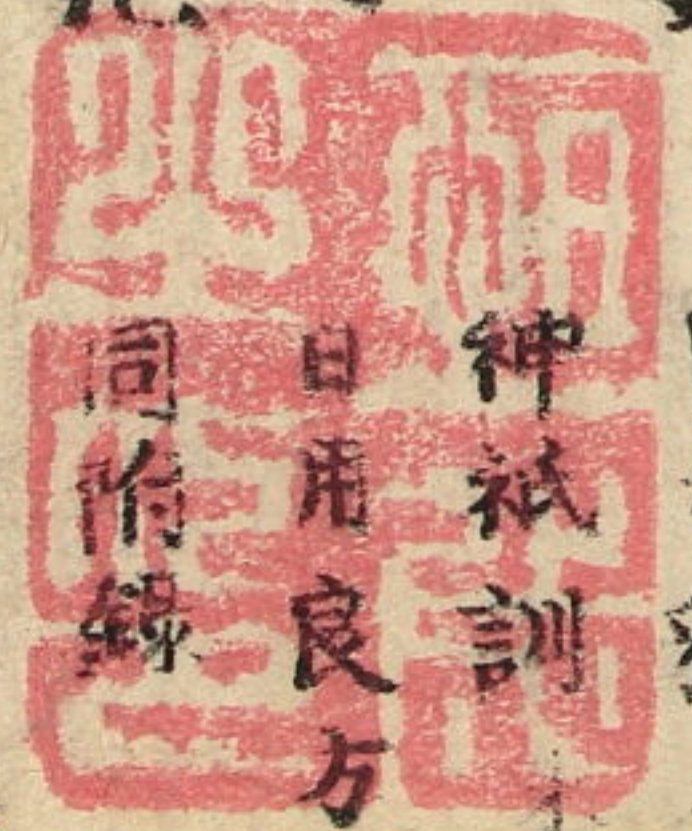
江戸方より一里	七十八文	板橋方より一里	余 七十八文
堀方より一里	九十九文	蕨方より一里	百一十文
浦和方より一里	百一十二文	大宮方より一里	百一十四文
上尾方より一里	百一十二文	桶川方より一里	百一十九文
鴻巣方より一里	百廿九文	熊谷方より一里	百三十八文
深谷方より一里	百廿九文	甲府方より一里	百三十二文
後藤方より一里	百廿八文	武村方より一里	百廿一文
敷原方より一里	百廿四文	志保方より一里	百廿三文
板鼻方より一里	百廿五文	安中方より一里	百廿六文
松坂方より一里	百廿一文	坂本方より一里	百廿六文
将井方より一里	百廿八文	忠直方より一里	百廿八文
追分方より一里	百廿四文	小坂方より一里	百廿九文

奥村方より一里	百廿四文	塩津方より一里	百廿七文
八幡方より一里	百廿八文	白川方より一里	百廿九文
芳田方より一里	百廿五文	長瀬方より一里	百廿一文
和田方より一里	百廿五文	下流方より一里	百廿三文
塩尻方より一里	百廿一文	津場方より一里	百廿五文
中込方より一里	百廿七文	新坂川方より一里	百廿一文
赤坂方より一里	百廿三文	萩原方より一里	百廿七文
志保方より一里	百廿四文	福原方より一里	百廿四文
上野方より一里	百廿七文	信濃方より一里	百廿二文
神原方より一里	百廿五文	水戸方より一里	百廿七文
妻籠方より一里	百廿四文	碓氷方より一里	百廿四文
碓氷方より一里	百廿四文	中津方より一里	百廿四文
大井方より一里	百廿九文	大久保方より一里	百廿九文

少許

享 保 六 歲

小學句讀	筑前名寄	六
家道訓	樂訓	六
大和めく	有馬名所記	一
三禮口訣	木曾路之記	一
業譜	瀨州せと	五
慎思錄	續和漢名數	三
文武訓	初學訓	五
和學一步	扶桑紀勝	四
養德集	東海力の記	一
養業全書	和蘭雜	一
誘抄	孝親釋義	一
	續瀨州めく	一
	和漢享始	十三



38-754

貝原先生編述目次書林柳枝軒藏版

細井	三	百十四文	中	三	百十四文
伴	七	七十七文	右田	二	七十七文
比	八	百廿八文	細	二	百廿八文
郷	九	百廿九文	山	二	百廿九文
志	十	百三十文	志	二	百三十文
岡	十一	百三十一文	今	二	百三十一文
柏	十二	百三十二文	醒	二	百三十二文
東	十三	百三十三文	名	二	百三十三文
志	十四	百三十四文	志	二	百三十四文
志	十五	百三十五文	守	二	百三十五文
志	十六	百三十六文	大	二	百三十六文
志	十七	百三十七文	志	二	百三十七文
志	十八	百三十八文	志	二	百三十八文
志	十九	百三十九文	志	二	百三十九文
志	二十	百四十文	志	二	百四十文

次

